

# 鳥取西道路の遺跡を掘る!

第45号 2013年1月24日

高住牛輪谷遺跡では、今年度の調査でむかしの下駄が出土しました。

今回は、この下駄についてお話ししたいと思います。



- ① 桂見鍋山遺跡(鳥取市桂見地内)
- ② 東桂見遺跡(鳥取市桂見地内)
- ③ 高住牛輪谷遺跡(鳥取市高住地内)
- ④ 高住井手添遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑤ 高住平田遺跡(鳥取市高住地内)
- ⑥ 良田平田遺跡(鳥取市良田地内)
- ⑦ 良田中道遺跡(鳥取市良田地内)

## げ た 下駄のはなし

下駄が日本に広く普及するのは、平安時代の中ごろ(10世紀)以降です。その頃は「アシダ」と呼ばれており、下駄という言葉が使われるようになるのは江戸時代の初めごろ(約400年前)と言われています。

遺跡から出土する下駄には、一木作りの「連歯下駄」と、台の部分に歯を取り付けた「差歯下駄」の2種類の下駄があります。差歯下駄は鎌倉時代(800年前)に普及したとみられ、それ以前は連歯下駄が履かれていました。ちなみに、日本最古の下駄は、鴨田遺跡(滋賀県長浜市)などで出土した古墳時代中期(約1600年前)のものでした。



坂長前田遺跡(伯耆町)出土の下駄  
左は差歯下駄(室町時代)  
右は連歯下駄(平安時代)

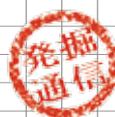


高住牛輪谷遺跡出土の下駄  
(古墳時代終わり頃)

さて、高住牛輪谷遺跡から出土した下駄は古墳時代の終わり頃、今から1400年ほど前の連歯下駄です。足をのせる台には鼻緒を通す穴が3か所開いていますが、前緒穴は現代の下駄のように中央に開くものでなく、右側に寄っています。こうした下駄は、右足用、左足用があった奈良時代(8世紀)以前のものに多くみられます。

全国的に古墳時代の下駄は珍しく、祭祀遺跡から出土したり、古墳の副葬品として石で作られた模造品が知られます。古墳時代頃の下駄は、日常の履物というよりも、祭祀など、特別な場合に履かれたものだったのかもしれませんが。

(財)鳥取県教育文化財団  
調査室  
美和調査事務所  
〒680-1133  
鳥取市源太12番地  
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)  
TEL: 0857-51-7553  
FAX: 0857-51-7550  
メールアドレス:  
tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com



明けましておめでとうございます。  
今年も最新の調査成果を随時お知らせしていきます。お楽しみに!  
なお、ただいま鳥取県立博物館では、「発掘された日本列島2012」が開催されています。平成21・22年度に調査した本高弓ノ木遺跡、本高古墳群から出土した遺物の展示もされています。ぜひご覧ください。

鳥取県教育文化財団 調査室

# 桂見地区

出土品をご紹介します!!



## 桂見鍋山遺跡

弥生時代の落とし物?



かつらみなべやまいせき

調査中、弥生時代の田んぼから教科書でもおなじみの石包丁いしほうちょうが出土しました。これは包丁  
といいながら、調理用具ではありません。

石包丁には半月形や長方形のものなど、さまざまな形のものがありますが、いずれも真ん  
中に穴が開けられており、この穴に指に引っ掛けるひもを通し、片側をと研ぎだした刃の部分で、  
稲穂を刈ったものと考えられています。つまり石包丁は今でいうところの鉄の鎌かまに相当する  
ものなのです。鉄がまだまだ貴重であった弥生時代には、石の収穫具しゅうかくぐが活躍していたようです。

なお桂見鍋山遺跡から出土した石包丁は完全な形をしており、刃も鋭利えいりで、十分に実用に  
耐えうるものでした。

まだ使えるはずの石包丁がなぜ田んぼから出土したのか?・・・

もしかしたら弥生時代の農民の落とし物かもしれません。



### ◀石包丁の出土状況

弥生時代後期（約1900年前）の田んぼ  
の土の中から見つかりました。

### ▶石包丁の使い方

弥生時代には稲を収穫するとき、現代  
のように根元から刈り取るのではなく、  
穂首ほくびから稲穂のみを摘み取っていました。  
品種改良が進んでいなかった弥生時代の  
稲は、熟す時期がまちまちだったからだと  
考えられています。

石包丁は、稲穂のみ刈り取るには適し  
た道具だったのです。

